

高野付中昭和二年三月五日の飛行冊子用

昭和二〇年の日記から

三島 良績

五〇年前の戦争最後の年を思い出して語るのも一案であるが、折角昭和二〇年の日記が残っているので、私はこの三六五日の中から一五を抜き出して当時の状況を生で記録することにした。私は一九一九年九月戦時繰り上げで大学を出た後、前年から新設された大学院特別研究生に選ばれた。徴兵検査では〇・一以下の近眼でも第一乙種合格で千葉県市川国府台に通信兵として入営するはずを、大学院前期二年（いまと違って修士の学位はない）の間入営を延期され、大学の研究室に通って航空機用ジュラルミンの改良合金の研究を手伝っていた。三月末から二週間程、栃木県日光の山中に疎開する祖母に同行して、住居の設営をし、その後東京に戻って終戦まで東京に居た。この環境条件の下で、毎日A5版一頁の日記をつけつづけた。何か題目をつけて一文を書く本文を主にし、その日々の出来事が別欄に記してある。

当時の私の修士一年の工学研究科の金属工学の大学院生に当たる私の書いたそのまゝを再録した。もちろん仮名づかい漢字、文体とも旧のままである。

① 二月一九日（月）晴

（コレヒドールに続々空挺隊降下激戦中）

### 技術陣の組織

我国の技術陣は、その研究能力に於いて、その研究者の能力に於いて、敵国に劣るとは考えられぬのであるが、今日に及んで何が故に科学技術戦にも劣勢を感ぜしめておるかと言へば、重大なる根因は組織のない事である。不足と言はず、無いと言ふに等しいのである。英国から送られたV一号の部分品の片々を受取って、七日後に米国式V一号が立派に試運転したと言ふ事実と、撃墜敵機のパネルの片々が、材料屋の手許に入るのに一年もかかると言ふ我国の事実とは言説を加へないでも、組織の相違を明にしてゐると思ふ。それでなくとも我国の研究陣、技術陣は人の数に於て著しく少ない。これを最高度にも利用しても尚、数量に於て優れた敵に対抗する事は容易ではない。ましてや宝の持腐れの下手法では、その成果の劣る事も当然である。今頃組織を考へる時でないと言ふ勿れ。このまゝで何が出来るか。

② 四月一六日（月）晴

（今晚B29約二〇〇機京阪東南及西南部に襲撃墜七〇、損害五〇以上  
沖繩南部の敵攻撃準備中）

#### 山の物價

物價といふものは需要と供給の関係によるものであるといふ事は小学校の本で習った事であるが、戦時に於る統制経済の圧力の下に於ても、依然この法則が成立してゐるらしい事を近頃感じた。配給だけの生活といふ事を強調する人があるが、まづまづ配給品だけで十分な生活の出来る人は余程に買溜めしておいた人以外には絶対に無いと申してよいであらう。多少の差はあれ、若干の物資は配給以外に直接生産者から消費者に渡るのである。この場合に世に云ふ闇價格が出現するが、この價格が本当の物の量と需要の量の相関関係を示してゐると言つてよい。物は今日でも金のある処へ流れるが、農家では今日着物類を持って行かぬと食糧は譲らないし、はてはこれを土産として外に代金を山程拂ふのである。東京で一升二〇円する米は日光町では五円位といふ。山の物價にも経済の法則はあると思つた。

③ 四月二五日（水）晴

（沖繩方面我軍二二日より総攻撃、撃沈破一二 敵艦上機撃滅）

#### 東京の魅力

疎開した人は皆東京の魅力に悩まされるらしい。東京に長年住みなれて来た人にとつては、やはり東京は心のふるさとである。東京人は故郷がないのだと語つてゐたひとがよくあつたが、斯うした時になつて見ると東京の住人には東京といふれっきとした故郷があるといふ事がよく判る。要残留者は勿論の事であるが、用がないか又は罹災によつて東京を去つて行く人にとつても、假令大部分が瓦礫と焼木の原とはなつても、東京はたまらぬ魅力をもつてゐるらしいのである。私自身もこれをつくづくと感じた。だから外の理由もあるかも知れぬけれども、一旦田舎に転出したものの、やはり東京に逆戻りする疎開者もかなりあるらしい。家が尚残つてゐる場合は尚更である。住みなれた家がなくなる迄は、少くとも多少の身心の労や危険に關せず、東京に留りたいと言ふ人が多い。この魅力の根因は何であらうか。

④五月二四日（木）晴

（今暁一時半——四時B29二五〇機京浜西南部に來襲、焼夷攻撃、一部浜松、静岡、横浜、埼玉へ。制空部隊戦果撃墜二七撃破三〇）

戦争と外交

戦争の最中には遮二無二ただ喧嘩すればよいのであって、交際などはどうでもよいかと言うと全然反対である。戦争になると、外交の重要性は著増し、外交の良否が戦争の成否を半ば決すると思つて差支ない位である。一方の国が完全に崩壊し又は亡び去るといふ例はさうない事であるから、結局戦争は或程度の処で媾和する事になる。英国が独逸にとに角勝てたといふ事は、一に外交の功績であり、ソ聯を上手に利用し、米国を担ぎ出したからであつた。小国が亡ぶも興るも国際外交裡にどう棹すかで決る事である。軍人と全国民は凡そ甘い事は忘れ、妥協や敗ける事などは毫も考へずに唯戦ひつづけねばならぬのであるが、外交官は絶えず世界に目を配り、出来るだけ上手に世界の波を渡つて、自国の戦争を樂にし、自国に有利に媾和して速に勝利を企らねばならない。戦争の末期には殊に外交次第で興亡が決る。

⑤五月二七日（日）晴——海軍記念日——

（沖縄北・中飛行場を拘束、一五〇個以上に火柱）

火焰と闘ふ

二五日夜一〇時、予期してゐたB公の來襲に一同就床直後の床を蹴つて立上り、武装を備へ、丁度帰宅した有良も加はり、柴田・太田・小島氏共男六名。若い女三名の量を巧に配置して焼夷弾に備へた。東南方遠かつた火の手は烈しかったが、西方上空で戦闘機の攻撃で火を吐いたB公一機、眞に狂ひもだえて東南近くへ撃墜され快哉を叫ぶ東の間、この火を指しての後続機の投弾により一二時頃より高田馬場崖下西方上落合一帯は火の海と化し、砂利の雨を馬穴に注ぎ込む如き音響と共に桂井、鶴見、広田三軒に焼夷弾落下、猛烈に炎上したが、桂井・広田家は消火し鶴見家は焼け落ちた。折から西方の火点よりの延焼炎々と十四夜の月をかくし、これに一同挺身して防火に努力、火の子を浴び、池の水をリレーして遂に五米巾の道路一つで喰止めに成功した。吾等火に勝てり。而して絶対にB公には勝てる事を確信した。

（注…有良は次弟 当時動員学生）

⑥六月二十五日（月）雨晴

（二〇日沖繩、牛島中將以下最後の総攻撃決行。二二日以降詳報不明。

出血八万、艦艇六百、特攻隊攻撃続行、五〇万島民も最後まで奮戦）

#### 戦都報告

戦火の眞只中の東京に住して、昨今の東京生活の率直なる報告を記して見る。率直に言つて今の東京人はもう空襲は恐れて居ない。B公のP公のと敵機を呼称する中に自らの家を焼かれ、身内を勃火に奪はれた憎悪と敵愾心が強い。彼等は黙々として焼跡に壕舎を作り、瓦礫を片付けて畑化しつつある。今夏の食糧事情は逼迫以上であらうと予想されてゐる。多量の貯蔵米を焼いた不備を今更議ふよりも、目下米半分に大豆、玉蜀黍、食用粉半分といふ主食配給量が更に悪化し、七、九月には米が殆どなくなるかも知れぬと言つても、今更苦情も出ない。黙々と薯を作り、菜を播いて大豆米を細々と食ひ、仕事の激務の外に交通機関の混雑と闘ひ、度々の空襲に迎接し食生活確保に農耕に努めてゐる。勝つまでの苦勞といふ明るい気持ちで、戦都東京人は赤い目にしみるやうに赤い焼跡を眺めて闘つてゐるのである。

⑦八月一日（水）晴

（本土決戦に備える陸海軍戦備万全と発表 七月中制空戦果

#### 撃墜破 夫々約五百）

#### 食の問題

流石の瑞穂の国も征戦四年に垂んとして漸く食の問題に悩みつつある。代用食の混入比が五割を遠くこして、日に一回しか御飯の食べられない今日に於て、代用食の食べ方と栄養の保持、健康の維持といふ問題がいよいよ切実である。大豆を米に炊き込むと、尨大なる燃料損失に耐へられる家庭でない限り、固い大豆による下痢が絶えず、粉にするのでは手数と時間の点で一日在宅する暇人以外には手がかからない。一方たうもろこしに至つては、身分の高下、生活程度の差異にかんせず、どうしても食いやうがなく、鶏の餌として卵を買ふ時の御土産にするか、粉にひいて生臭いのを我慢で一部團子に入れる外はない。食用粉の、どんぐりの粉のと、何でもうまいまづいは此際何も言はぬけれども、連続数日の下痢や腹痛の如き事は如何にも戦力に影響する。又栄養と体力の維持の点でも数量的に自信ありや否や大いに疑はしい。

⑧ 八月六日（月）晴

（P 5 1 一二〇機今朝関東来襲 B 2 9 昨夜西宮・今治・宇部へ）

### 食と士気

戦局苛烈の折食生活の逼迫は当然の事であるが、国民の側としては一にも工夫、二にも工夫に努め、何でも害にならぬものは調理の工夫によって食糧化して耐へ抜く決心を必要とするのであるが、一方政府の側とし、当局者の立場としてはこれに一任してただ漫然と節食を説くのみが能ではない。食糧の減少によって必然的に栄養は偏して来る。野草にも、昆虫にも養分があると分析値を説く者はあるが、いくらあっても人間の内臓がこれを攝取する能がなければ何にもならない。吾人の内臓は祖先代々大体或範囲のものを食って栄養を攝る事に習熟して居り、さう矢鱈のもので生きて行けるものではなく、ビタミンの小塊一日分を舐めてもこれで満足して働けるものではない。人間は機械ではない。精神要素次第で一が十にも働く。国民の食生活にもう少し考慮を加へぬと士気銷沈する懼が大きからう。

（付）八月七日（火）晴

昨日 B 2 9 少数機広島に新型爆弾を投下

⑨ 八月八日（水）晴

（李王殿下一昨日の広島爆撃で御戦死）

### 政治の貧困

最近の世事をいろいろ眺め、政治の貧困をつくづくと感じる。二・三の例をあげて見ても例えば張満州国總理の贈物として味噌が戦災地の人々に配給され、無料で配られたが、その代りその月は普通の配給はないと聞いて都民は明に呆然とした。何と言ふ貧困な政治であらう。その月の配給分は普通に渡し、その外に贈物として假令十瓦でも増配したならどの位張氏の氣持が生きたか知れない。政治は国民の心の琴線に上手にふれる妙手がなくてはならない。国民の期待を潰し、一部に信頼を失墜する声を生じては到底指導者の資格はない。国民に対し科学技術の振興をわめき、技術者の優遇を叫ぶ事久しい。而して去る五月の主食配給量の訂正に当り当然増配を予想した国民の期待に反し、技術者は職人程の配給もない。あんな奴等が飽食暖衣してゐて、肝心の処にないと国民に思はせる事は政治の貧困であり、国内分裂の芽である。

(付) 八月一〇日(金) 晴

(モロトフ、佐藤大使に八日夜宣戦の宣言を通達、九日より戦争状態に入ると通告)

⑩ 八月一日(土) 晴

(北部国境をも越境、全滿に戦雲、関東州に戒厳令施行)

ソの対日宣戦

八日夜モロトフはソの対日宣言を佐藤大使に通達し九日より戦争状態に入ると申入れ、この一方的申入れに伴って九日早朝より満州里、暉春両面より攻撃を開始し佳木斯・吉林・チチハル・満州里及元山・羅津を空襲したものである。彼の宣言の要旨は過般の米英蔣宣言の対日降伏条件を我国が一蹴した故に、ソとして調停不能になったといふ一件である。これは凡そ筋の通らぬ事で、だからとてソが対日開戦する理由にはならない。眞を察すれば現状を見、三国会談でトルーマンの話をきき、近く日本は敗けると考へた。故に、戦後東亜分割に自己の発言権を確保したい為である。故にソの対日戦争は、海軍の皆無と相俟ち空襲と満鮮への攻撃程度となり、なるべく米国に骨を折らせんとすると思はれる。万一自ら対日戦の盡力を引受け、米に楽をさせる様な事なら、スターリンの愚や憐れむべきであり、米謀略の成功である。

⑪ 八月一五日(水) 曇

(大東亜戦争終結の詔書煥発、正午聖上御放送 艦載機五百機今日関東へ)

原子爆弾

広島に投下し長崎に投下したものが原子爆弾と称せられてゐるが、之はアメリカの呼称であつて眞偽の程は知らない。原子核崩壊のエネルギーを用ひたにしては少々効力が小さ過ぎる様に思ふから、余程効率悪く使つたものか、又は爆薬と原子爆弾の中間と思ふ。その何れはとも角、この使用は新兵器として相当の効果があつたが、第二回、第三回と効果あるとは限らないし、投下する機自身おっかなびっくりの代物かも知れず、又さう沢山生産出来るとも限らない。世界をあげて敵味方ともこの新爆弾を攻撃し、非人道であると称してゐるが、我国も亦米国に對し毒ガス以上の非人道だとして抗議したと発表した。人道論は別として科学者として考へるとこの兵器に圧倒されて、これを封じ手にせよと要求するのは卑怯な気がする。我方の頭で出来ぬなら深く射たれて死なう。防止手段あるか、より以

上の攻法あるならやったらよい。

⑫ 八月一七日（金）曇

（東久邇宮内閣成立、陸海軍人に勅語を賜い勇戦を御嘉賞、

午前B29一機 PB4Y四機飛来 我戦闘機しきりに飛ぶ）

敗因

不敗の筈の日本が敗れた理由は吾人猛省して後人に伝へ、千古の戒めとせねばならない。元来物質的国力では量に於て到底及ばない我国として、勝つためには精神を以て補ふ外なかつたに反し、文字通りの一億一心になれず、自我の心が一人一人に残つてゐた事と、科学技術の発達により、自然的障壁と精神力の差の總和より物質力が優れるに至つた事が一つである。而してこの優越を覆すには我が科学技術力が彼に数段飛躍し、物の不足を補ひ、例へば原子爆弾の如きものを敵に先んじて完成せねばならなかつた処が、実はむしろ反対であつた事が二つ、更に外交・内政の政治手腕に欠け、国際情勢に巧に便乗する外交に乏しく、内政も亦全きを欠き特に生活必需面経済面で危機を醸成した事が三つ、一部の陸軍軍人が余りにも国民の反感を買ひ反軍思想から転じて厭戦思想を上層部に生じた事が四つ等々である。

⑬ 八月一八日（土）晴

（専任文相に前田多門氏、皮革・金属類の民間使用を許可し奨励、

二〇日より施行）

科学技術の敗戦

今度の敗戦の重なるもの一つは科学技術の敗戦である。物質力に乏しい我国をして世界の資源国米・英に勝たしめんには、この不足を精神力と科学技術の優位で補償せねばならぬ事当然であり乍ら、後者が余りにも閑却され、いよいよ戦局非なるに及んで口でのみ振興を喚いたに過ぎない。原因は二つであつて、企業が外国技術の輸入に汲汲として国内技術を強ひて排除した事と、陸軍を主とする軍人が精神万能論を唱へて技術をむしろ圧迫した故である。この不遇にあつて孤壘を護り、とも角大体世界の水準近くに我が技術を維持した労は大いに賞せられてよいが、基礎研究の不足と、基礎と応用の連絡不足が率直に指摘されねばならない。応用の研究に偏り基礎理論を腰を据へて研究せぬ事は枝葉に給すべき根の養分吸収力を縮小し、而も応用と基礎の直結は外国で一旦行はれては逆輸入し

てゐたからである。

⑭ 八月二四日（金）曇晴

（終戦処理会議昨日設置 電力使用制限今日より解除）

### 原子爆弾の被害

使用後二週間余して広島市に対する原子爆弾の被害が明らかになった。これによると大体ウラニウムを中性子により破壊する形式のものらしい。而してこの爆発による実害は死者十方に垂んとし、傷者も追々にこの放射線の害によって健康を害して行くやうである。直接の実害は別として、このウラニウムの散布は、一つの長期散毒であり、明に人類生存上、相当注視するべき事件と申さねばならない。原子爆弾が我に先んじて完成された事自体については率直に日本原子物理工学の敗北を認めるものであるが、これを使用するといふ事は別の問題である。非戦闘員を含めて一時に多数を殺傷する事自体は戦争行為として止むを得ぬ事であるが、これが戦後に至る迄投下地の生活を不可能にし、何十年以上に至って生物なき土地たらしめる如きは世界生物の生存上恐るべき犯罪行為と申すべきである。

⑮ 一二月二五日（火）晴

（米紙 マッカーサー占領計画の成功を謳歌、外国の力による革命は世界史に初めてと）

### 年末世相

年内一週間に迫った。終戦後に退職金等で一旦膨れた失業者の懐中も、大体四ヶ月で全部消費されたに近い。一升六五円、八五円の米、一貫目二〇円のいもから大根も六円位、人参も二〇円、蓮根等に至るまで二五円近くするのである。これで二・三人家族で月に六〇〇円以下では生きるに事を欠くと言ふ。配給米も米の供出不振で一月末頃から早くも減配が憂へられ、新春が迫っても人々の破産に瀕した顔は明るくない。それかあらぬかこの年末に強盗殺人の往行が類を見ぬ位多い。終戦後の四ヶ月に戦争中の八月分の何倍以上の犯罪があり、一二才のチンピラ少年の強盗が一七の女の財布を奪ったりしてゐる。三人組ピストル強盗の出没と、数人以上の集団盗賊の出現で焼残りの家や、駅に近い家々はまことに物凄である。いやな事の余りに積もり積もった今年の年末、早くあっちへ飛んでゆけと言ひたい位だ。